「地域密着型金融」推進の取組状況について

平成29年7月

ナント・なら・ずっと！

NANTO 南都銀行

目　次

◇ 「地域密着型金融」の取組み概要　－　1

◇ 平成２８年度「地域密着型金融」の具体的な取組み

■ お取引先企業に対するソリューション営業の実践や
コンサルティング機能の発揮　－　3

■ 地域の面的再生への積極的な参画　－　6

■ ＣＳＲへの取組み　－　8

■ 地域やお客さまに対する積極的な情報発信　－　１１

南都銀行は「Yoshino Heartプロジェクト」と「木づかい運動」を応援しています。

◇「地域密着型金融」の取組み概要

「地域密着型金融」の取組み概要

■当行の地域密着型金融およびお客さまの経営支援に関する取組方針

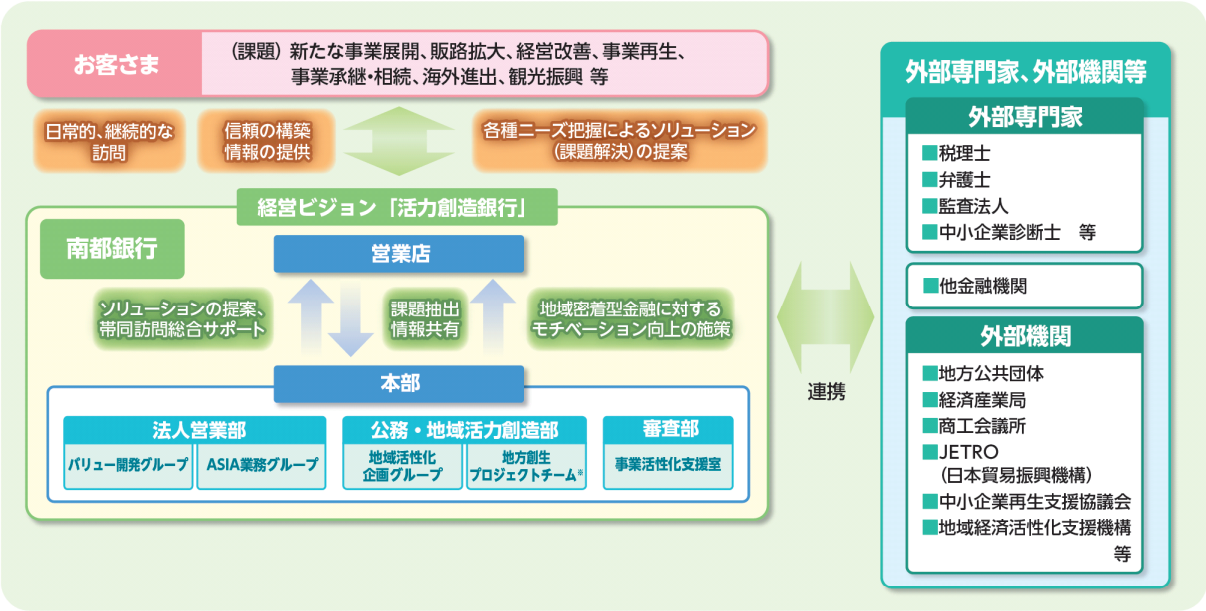
当行は、お客さまとともに成長し、地域金融機関として永続的に発展していくためには、「地域経済の活性化」が不可欠であると考えています。

地域に根ざした営業活動を展開しつつ、営業店と本部はもとより外部組織とも連携した強固な総合サポート体制を整えています。

ソリューション（課題解決型）営業の実践やコンサルティング機能の発揮によりお客さまのニーズに的確にお応えし、新たなビジネスチャンスの創出を図るなどお客さまの経営支援に積極的に取組んでまいります。

【地域の定義】

当行は、奈良県および大阪府、兵庫県、京都府、和歌山県、三重県の6府県を地元営業地域として営業基盤を拡大しつつ、永年にわたり地域に密着し経済活動を支援しています。なお、本誌に記載している「地域」とは、この地元営業地域のことをさします。



※地方創生プロジェクトチーム　政府の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ設置、地域金融機関の立場から地方版総合戦略の策定および円滑な実施等に積極的に参画し情報提供などの協力を行っています。また、地方自治体と「地域の活性化」に向けた包括連携を締結するなど協力を進めており、地域活力の増進、地域経済の発展に努めています。

金融機関初！「奈良町“空き家・町家”見学ツアー」を実施

平成29年3月、歴史的資源である「町家」を後世に残すべき建造物とし、町家利活用に係る課題解決のため、奈良市と協働して「町家所有者」と「事業者」をマッチングさせる「奈良町“空き家・町家”見学ツアー」を実施しました。金融機関が地方公共団体から「古民家活用事業」を受託し、見学ツアーの企画・運営をする取組みは全国で初めてとなります。

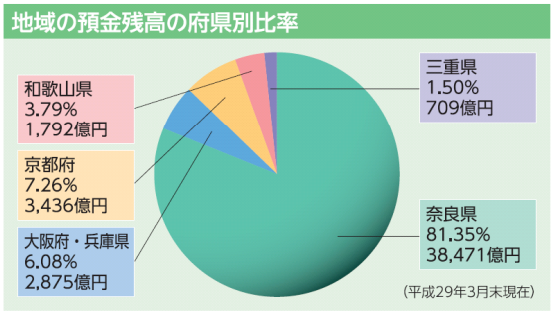
今後も、地方公共団体と連携して、空き家・町家等の「古民家活用事業」に注力し、観光振興につなげてまいります。

◇ 「地域密着型金融」の取組み概要

ナント・なら・ずっと！ NANTO 南都銀行

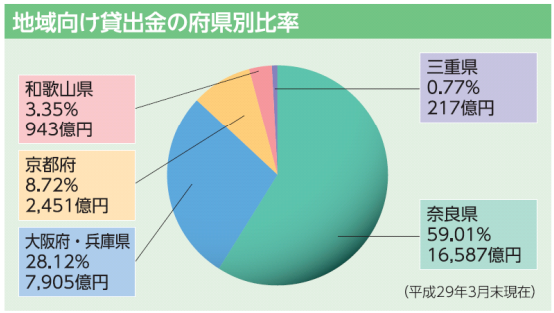
●地域の預金残高と府県別比率

平成29年3月末の地域の預金残高は4兆7,285億円となり、総預金残高4兆7,477億円の99.59%を占めています。



●地域向け貸出金残高と府県別比率

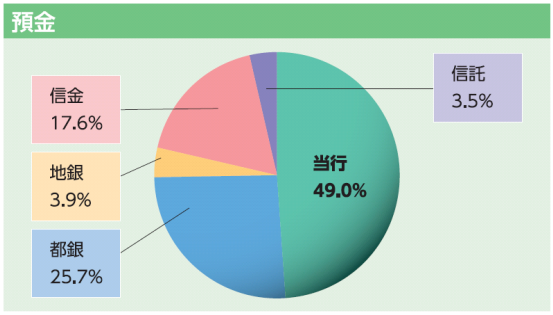
平成29年3月末の地域向け貸出金残高は2兆8,106億円となり、総貸出金3兆2,623億円の86.15%を占めています。

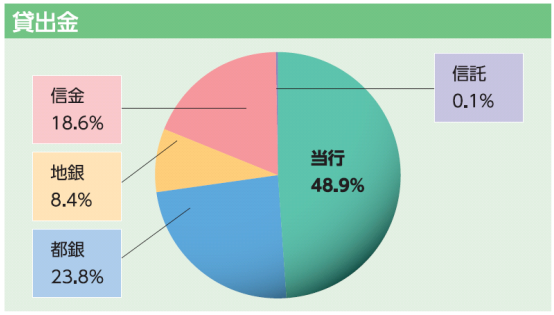


●預金・貸出金の奈良県内シェア

当行の主要マーケットである奈良県では、預金、貸出金とも圧倒的なシェアを誇っています。

(平成29年3月末現在：銀行・県内信用金庫<ゆうちょ銀行・農協等を除く>を対象としています。)





●地方公共団体との取引

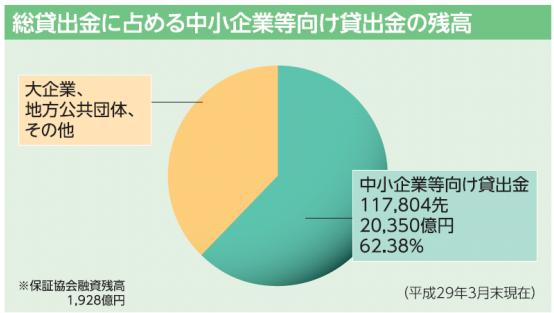
当行は、奈良県および39市町村の指定金融機関として、地方公共団体への貸出、公共債等の引受を通じて、地域社会に貢献できるよう努めています。

平成29年3月末の地方公共団体向け貸出金残高は5,892億円で、28年4月から29年3月にかけて引受けた地方債の総額は1,000億円となっています。

●中小企業等向け貸出金残高と割合

中小企業等向け貸出金残高は、平成29年3月末で2兆350億円となり、総貸出金に占める割合は、62.38%となっています。

(注) 中小企業等とは、資本金3億円（ただし、卸売業は1億円、小売業、飲食業、物品賃貸業等は5千万円）以下の会社又は常用する従業員が300人（ただし、卸売業、物品賃貸業等は100人、小売業、飲食業は50人）以下の企業等をさします。



◇平成２８年度「地域密着型金融」の具体的な取組み

ナント・なら・ずっと！ NANTO 南都銀行

お取引先企業に対するソリューション営業の実践やコンサルティング機能の発揮

《ソリューション営業の展開》

・当行は、企業のライフステージに応じたソリューションの提供やコンサルティング機能の発揮により、取引先企業の経営支援を行っています。

●創業支援・新事業展開支援

【融資制度】

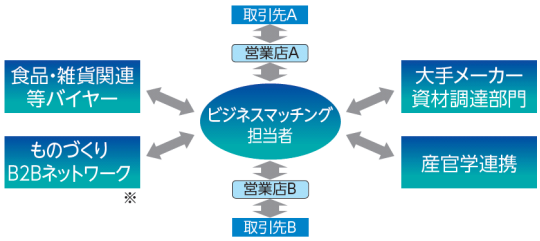
創業・新事業展開向け融資制度「＜ナント＞事業化支援ファンド80」により、創業をめざす方、新たな事業展開をお考えの方を資金面でサポートします。

【事業化支援】

平成28年度も当行営業エリア内で創業や新たな事業展開をお考えの方を対象に、ビジネスプラン事業化支援PROJECT「第3回＜ナント＞サクセスロード」を実施しました。本プロジェクトは優れたビジネスプランを表彰し賞金を授与するとともに、当行の専属担当者が外部機関等とも連携しながら事業化を支援するものです。

●ビジネスマッチング

本店内にビジネスマッチング担当者を配置し、お取引先の販売・仕入・外注・提携等のニーズや情報を1ヵ所に集約し、紹介候補企業を発掘する等個別企業間のマッチングに取組んでいます。また、お取引先同士のマッチングに加え、大手バイヤーやメーカー等の買いニーズを発信し、お取引先の販路拡大ニーズにお応えしています。



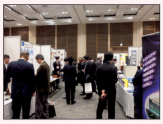
※ものづくりB2Bネットワーク

部品発注や加工依頼等ものづくりに関する受発注ニーズを一括して受け、それらのニーズに的確に対応できるものづくり企業を紹介するために大阪府と45金融機関（当行含む）が連携して運営しています。

平成28年度「ものづくりB2Bネットワーク」を利用したビジネスマッチング機会の提供

大阪府下企業等からの発注情報	142件
営業店から寄せられた受注希望	165件

◎＜ナント＞ものづくり元気企業マッチングフェア2016



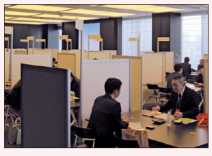
平成28年12月、大阪市北区「グランフロント大阪」において「＜ナント＞ものづくり元気企業マッチングフェア2016」を開催しました。当日は出展いただいた「ものづくり企業」71社を含む102社・団体が自社製品・技術をPRし、来場者（来場者数1,213人）との活発な商談が多数行われました。

メイン会場では、出展企業ブースに加え、奈良県の特産品である漢方や木材をPRするコーナー、企業の課題解決相談窓口、ネットを活用した海外販路開拓支援窓口などを設置しました。また、メイン会場外では、ものづくりB2Bネットワーク商談会、MBT（医学を基礎とするまちづくり）による新産業創生・地域創生シンポジウムなどのイベントを同日開催し、出展企業・来場者の多種多様なニーズにお応えしました。

◎ナント「食」と「モノ」の商談会in東京2017

平成29年3月、JR東京駅に隣接する大和コンファレンスホール（大和証券㈱本店内）において、事前予約制の個別商談会「ナント『食』と『モノ』の商談会in東京2017」を開催しました。

当日は地域色豊かで特色ある食材や生活用品を取扱う当行お取引先50社が、首都圏のホテルや百貨店、スーパーマーケットなどのバイヤー26社に自社商品を積極的にPRし、多くの有効な商談が行われました。



◎地方銀行フードセレクション2016

平成28年11月、東京ビッグサイトにて開催された「地方銀行フードセレクション2016」に参加しました。本展示会は「食品・農産物」を取扱うお取引先が展示ブースを設け、日本全国・海外から来場するバイヤーに対し、自社製品のPRを行う大規模食品展示会で、当行取引先11社が出展され、有効な商談が行われました。

◇平成２８年度「地域密着型金融」の具体的な取組み

ナント・なら・ずっと！ NANTO 南都銀行

●国際化支援

地元企業のアジアを中心とした海外ビジネスを法人営業部ASIA業務グループ、香港および上海の各駐在員事務所が連携して支援しています。さらに現在、バンコック銀行（タイ）、バンクネガラインドネシア（インドネシア）およびベトナム投資開発銀行（ベトナム）に行員を派遣し現地でのサポートも行っています。

また、海外ビジネスにおけるお取引先の多様なニーズにお応えするため、ビジネス商談会や交流会、セミナーなどの開催や海外銀行等との業務提携により強固なサポート体制を構築しています。

駐在員事務所および海外銀行派遣行員による現地サポート件数

サポート地域	平成26年度	平成27年度	平成28年度
香港	195件	155件	171件
上海	315件	217件	240件
タイ	237件	282件	201件
インドネシア	70件	117件	148件
ベトナム	－	106件	151件
合　計	817件	877件	911件

海外ビジネスサポートにおける業務提携先　（提携日順）

業　種	提携先
銀行	中国工商銀行、中国銀行、オーストラリア・ニュージーランド銀行、バンコック銀行、スタンダードチャーター銀行、バンクネガラインドネシア、インドステイト銀行、メトロポリタン銀行、ベトコムバンク、ベトナム投資開発銀行、バナメックス
リース会社	三井住友ファイナンス＆リース(株)、東京センチュリーリース(株)、三菱UFJリース(株)
保険会社	東京海上日動火災保険(株)、三井住友海上火災保険(株)、損害保険ジャパン日本興亜(株)
その他	(株)日本貿易保険、セコム(株)、綜合警備保障(株)、(株)名南経営コンサルティング、(株)フォーバル、SOMPOリスケアマネジメント(株)、アグアスカリエンテス州（メキシコ）、ハリスコ州（メキシコ）、グアナファト州（メキシコ）、ヌエボ・レオン州（メキシコ）、(独)国際協力機構

平成28年度 海外交流会・ビジネス商談会　開催状況

交流会・商談会名	開催年月	主催/共催（当行含む）	開催場所
第8回香港・華南地区日系企業ビジネス交流会	平成28年 6月	香港進出地銀18行	中国・香港
Mfairバンコク2016ものづくり商談会	平成28年 6月	地銀・地方自治体等35団体	タイ・バンコク
中国ビジネス交流会in青島2016	平成28年 7月	地銀4行1グループ	中国・青島
第3回ナントバンコク交流会	平成28年 8月	当行	タイ・バンコク
ベトナムビジネスセミナー＆交流会	平成28年 9月	地銀・信用金庫10行庫	ベトナム・ホーチミン
第11回上海ビジネス商談会	平成28年 9月	地銀・地方自治体等33団体	中国・上海
地銀合同セミナー・交流会@広州2016	平成28年12月	香港進出地銀9行	中国・広州

●経営改善支援、事業再生支援

専門のノウハウを持った審査部事業活性化支援室のスタッフが、経営改善計画の策定などについて助言や支援を行っています。

また、中小企業再生支援協議会の活用や、日本政策投資銀行・日本政策金融公庫・商工組合中央金庫と業務協力協定を締結するなど、公的機関との連携によるサポート体制を整えています。

〈外部機関の活用〉

事業再生、業種転換、事業承継、廃業等の支援、債権者間や債権者と債務者間の調整が必要な場合には、中小企業再生支援協議会等を積極的に活用しています。

【<ナント>活力創造サポート資金】

本融資制度は、財務データや担保・保証に必要以上に依存することなく、事業の内容、成長や持続可能性を評価する（事業性評価）ことにより、業況の改善や成長に取組む地元企業に対して、運転資金や設備資金等の前向きな資金供給を行い、支援・育成に繋げることを目的としています。

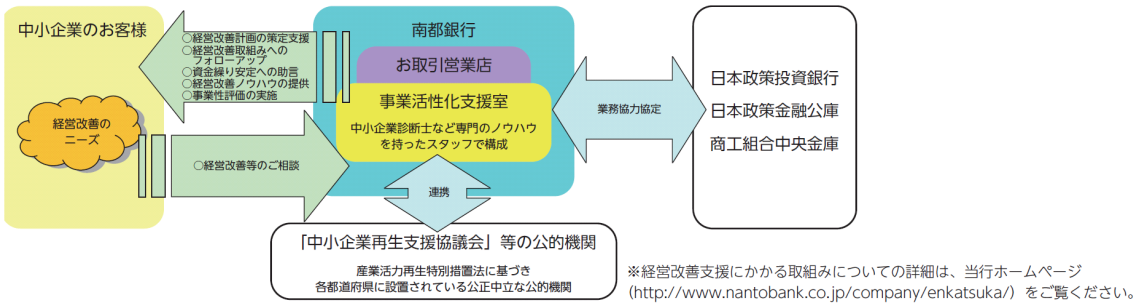
当行は、本制度を通してお取引先の生産性向上や、ひいては地域経済の活性化に取組んでまいります。

(平成28年度実績　210件39億円)

【奈良まほろば再生ファンド】

本ファンドは、抜本的な事業の再構築を必要としている奈良県およびその周辺地域を経営基盤とする地元中小企業の早期再生を図り、地域経済の活性化に寄与することを目的としており、当行を含む6金融機関が参加しています。

当行は本ファンドを活用することにより、お取引先の事業再生に向けた支援をより一層積極的に行い、引続き地域経済の活性化に取組んでまいります。



※経営改善支援にかかる取組みについての詳細は、当行ホームページ(http://www.nantobank.co.jp/company/enkatsuka/)をご覧ください。

◇平成２８年度「地域密着型金融」の具体的な取組み

ナント・なら・ずっと！ NANTO 南都銀行

●成長分野の支援

・医療・介護事業サポート

病院の建替、医療機器の入替等に伴う資金調達等のご相談、医療・介護事業者の経営や新規開業に関するコンサルティング等、医療経営士・介護福祉経営士資格を持つ専担者を中心にさまざまなサポートを実施しています。また、セミナーの開催により最新の業界情報等を提供しています。

医療・介護事業者向けセミナーの開催状況

＜ナント＞医療セミナー　（平成29年3月）

＜テーマ＞第1部「平成28年度診療報酬改定の影響と今後の対策」

第2部「奈良県地域医療構想を踏まえた今後の経営戦略」

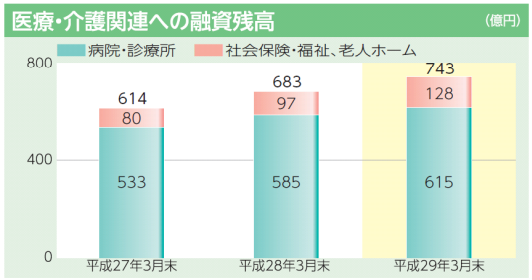
医療・介護事業の提携先

医療系コンサルティング：㈱日本経営、総合メディカル㈱

中古医療機器買取・販売案件紹介：エム・キャスト㈱

医療機関専用融資商品の取扱い

商品名：メディカルローン『＋』（プラス）	
特徴	・最大2億円・最長20年の長期融資に対応可能 ・新規開業資金にも対応可能 ・万が一に備え団体信用生命保険のセットも可能



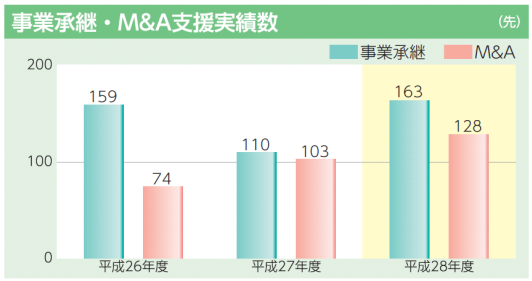
・環境関連ソリューション

環境への配慮や企業のエネルギーコスト削減、固定価格買取制度を活用した発電設備の導入等に対するニーズの高まりに対応し、提携事業者を通じて、設備の提案から導入効果や補助金活用等の相談まで幅広くサポートを行っています。

●事業承継サポート・M&Aアドバイザリー

経営者の高齢化に伴い事業承継を重要課題とする企業が年々増加するなか、外部専門機関とも連携し、後継者への円滑な承継に向けたサポートを実施しています。

また、企業の後継者対策や事業拡大ニーズにお応えするため、M&Aに関するアドバイス等を行っています。



◎「ナントCVC投資事業有限責任組合」を設立

平成29年6月、当行は、株式会社ベンチャーラボインベストメントと「ナントCVC投資事業有限責任組合（通称：ナントCVCファンド）」を設立しました。（存続期間10年間）

本組合は、当行の新たなビジネスモデルとして、当行営業地域の枠を超え、全国で経済・産業・地域振興への貢献が大きく期待できる創業段階や成長段階にある企業への投資を目的に設立するものです。

また、7月には、投資先企業の発掘、当行との業務連携の検討、ビジネスマッチングや融資を通じた育成・支援を行う専担部門として、「法人営業部」内に「コーポレートベンチャーキャピタル室」を設置しました。今後、当行と投資先企業との業務連携による技術・ノウハウ等の当行業務への活用のほか、投資先企業と当行の既存取引先とのビジネスマッチングや、投資先企業の融資案件発生時には当該企業の地元金融機関等との協調融資等、単なる投資に留まらず、投資先企業の企業価値向上と当行業務とのさらなる相乗効果を目指してまいります。

※CVC …… Corporate Venture Capital
投資家から資金を集めてキャピタルゲインを狙うファンドと異なり、本業との相乗効果を期待できる企業へ投資する仕組みのこと

◇平成２８年度「地域密着型金融」の具体的な取組み

ナント・なら・ずっと！ NANTO 南都銀行

地域の面的再生への積極的な参画

《「地方創生」に向けた取組み》

当行は政府の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、公務・地域活力創造部内に「地方創生プロジェクトチーム」を設置、地方公共団体取引店34ヵ店の営業店長を地方公共団体への地方創生推進担当者としてチームのメンバーに加え、地域金融機関の立場から地方版総合戦略の策定および円滑な実施等に積極的に参画し情報提供などの協力を行っています。

また、当行は地方自治体と「地域の活性化」に向けた包括連携を締結するなど協力を進めており、「まち・ひと・しごと」の各分野において各々が持つ資源を有効に活用し、地域活力の増進、地域経済の発展に努めています。

●観光支援への取組み

奈良県下の各市町村や観光関連団体と連携し、県内の観光資源を活用した企画・提案や観光振興に関するセミナーなどを行っているほか、奈良の観光情報を満載した地域ポータルサイト「ええ古都なら」を運営しています。

また、当行退職者から成るボランティアグループ「ナント・なら応援団」は、奈良県下の社寺等での拝観ガイドを実施するなど観光地奈良の地域活性化に取組んでいます。

「ええ古都なら」http://www.nantokanko.jp/

●「奈良県観光活性化ファンド」の設立

平成27年9月、当行は南都ディーシーカード株式会社とともに、株式会社地域経済活性化支援機構、株式会社日本政策投資銀行、株式会社リサ・パートナーズと協働して、「奈良県観光活性化投資事業有限責任組合(奈良県観光活性化ファンド)」を設立しました。

本ファンドを通じて、必要な資金の供給、ノウハウ等専門スキルの活用等を行うことで、宿泊観光環境の整備、魅力ある地域資源を活用した観光活性化を図り、県内宿泊需要の喚起・観光消費額等の増大をめざしています。

平成29年3月には、28年4月の第1号案件に続き、第2号となる案件の投資を実行しました。

今回の投資先は、日本酒発祥の地である古都奈良でクラフトビールの醸造所ならびにその販売を行うレストランで、商品は奈良市の「ふるさと納税返礼品」に取り上げられるなど、今後奈良町の活性化に繋がる魅力的な地域資源として期待されています。

●観光客誘致の増強～観光関連事業者向けセミナー「観光力創造塾」

「奈良」の魅力を高め、国内外からの観光客を奈良県に誘致することを目的に、観光関連事業者を対象に開催しています。

第1回(平成26年3月19日)　テーマ「本気で観光、頑張りますか？」
第2回(平成26年7月17日)　テーマ「『食』で奈良を盛り上げよう！」
第3回(平成27年1月22日)　テーマ「誘客に秘策あり！」
第4回(平成27年7月13日)　テーマ「インバウンド推進のキーポイント」
第5回(平成28年2月　1日)　テーマ「バリアフリー観光」
第6回(平成28年9月26日)　テーマ「インバウンド、第2ステージへ！」
第7回(平成29年1月30日)　テーマ「『観光立県』奈良をめざして」

◎「奈良県南部・東部地域を巡る旅行商品（日帰りバスツアー）」を開発

奈良県南部・東部地域の観光振興は奈良県総合戦略に掲げられ、観光入込客数や宿泊客数の増加が具体的な施策の目標とされています。当行は、同地域への「ひとの流れづくり」の実現に向け、平成28年9月、クラブツーリズム株式会社とのコラボレーションにより、地域の魅力を活用した旅行商品を協働にて開発しました。なお、本ツアーには、当行OB・OGによるボランティアガイド・グループ「ナント・なら応援団」がガイド役として協力しています。

- 第1弾：平成28年11~12月実施ツアー3本
- 第2弾：平成29年 5~ 6月実施ツアー2本

＊募集販売・実施：クラブツーリズム株式会社

●PPP／PFI事業への積極的な参画

当行は、民間資金等の活用による公共施設等の整備事業（PPP／PFI事業）に積極的に参画し、地域の経済発展・活性化への貢献を図っています。具体的には、奈良県初のPFI事業のファイナンスアレンジャーに就任し、融資を実行しているほか、地方公共団体への情報提供・提案・助言などの積極的な活動を行っています。

※PPP（Public Private Partnership）：公民が連携して公共サービスの提供を行うスキーム
　PFI（Private Finance Initiative）：PFI法（民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律）に基づき民間の資金と経営能力・技術力（ノウハウ）を活用し、より効率的な質の高い公共事業を実施する手法

◇平成２８年度「地域密着型金融」の具体的な取組み

ナント・なら・ずっと！ NANTO 南都銀行

●地場産業の支援

【林業分野】

当行は「吉野林業関連産業の活性化」や「森林整備による温暖化防止」等をめざす活動である「Yoshino Heartプロジェクト」を支援しており、吉野産割り箸の配付や間伐材を活用した吉野3.9ペーパーの冊子類への利用等を通じて、森林保全や林業活性化に対する「木づかい」の必要性の周知に努めています。また、奈良県産材の利用促進に向け奈良県等とも連携しており、当行においても県産材を新築店舗等を中心に積極的に利用するよう取組んでいます。

現在、「公務・地域活力創造部」が中心となり、林業関連産業の振興を図るため、さまざまな取組みを行っています。

「吉野かわかみ社中」と包括連携協定を締結

・「奈良の木マーケティング協議会」に参加

平成27年5月には、奈良県や県森林組合連合会、県木材協同組合連合会などで構成する「奈良の木マーケティング協議会」に正式参加し、林業・木材産業界の課題を汲み上げ、解決に向けた取組みに参画しています。

・「吉野かわかみ社中」と包括連携協定を締結

平成28年2月には、川上村と村内林材業4団体が設立した一般社団法人「吉野かわかみ社中」と包括連携を締結し、①吉野林業技術の継承による持続可能な森林づくり、②川上産吉野材の一貫供給による六次産業化の実現、③川上産吉野材にかかる情報拠点の整備等について、県内の林材業振興のモデルケースとして位置付けて支援を開始しています。また、「林業・木材関連産業座談会」を定期的に開催し、林業・木材産業の現状等を広くPRするなど、積極的な活動を行っています。

「〈ナント〉ものづくり元気企業マッチングフェア2016」での「奈良の木体験コーナー」では県産材を紹介

平成28年12月には、「〈ナント〉ものづくり元気企業マッチングフェア」において、奈良県や市町村、林材業関連団体等との協働で「奈良の木体験コーナー～吉野林業 山からの贈りもの～」を設置し、吉野林業発展の原点である酒樽、木工品・家具、住宅の木製内装材等を取り揃え、県産材の魅力を紹介しました。

当行は今後も引続き県産材の積極的な利用等により、森林保全や林業活性化支援を通じた地域支援に取組んでまいります。

【医薬品・漢方薬分野】

奈良県は、大和平野南部を中心に古くから漢方薬に使う薬用作物の栽培が盛んであり、平成27年7月には、「奈良県漢方のメッカ推進協議会」が始動しました。当行は設立当初から参画し、奈良県等とも連携しながら、同分野の活性化を図っています。

また、平成29年1月には、製薬業者の設備資金を全面的にバックアップするため、設備投資計画等に応じて「最長3年間の元金据置」を可能とする融資制度を新設しました。

【三輪素麺】

当行は、地元の特産品である三輪素麺業界を活性化するため、奈良県、桜井市、「三輪素麺販売協議会」、「三輪素麺工業協同組合」間の調整を行い、産官学金の連携が実現しました。平成27年3月には、「三輪素麺による地域活性化セミナー」を開催するなど、積極的な活動を展開しています。

また、平成28年3月、国が地域の農林水産物や食品をブランドとして保護する「地理的表示保護制度（GI）」の対象に「三輪素麺」が登録されましたが、当行は、GI登録をめざし、行政との間でのコーディネーターを務めるなどの支援を実施しました。今後も、地域ブランドの価値向上に向けた取組みを継続してまいります。

CSRへの取組み

◎当行のCSR（企業の社会的責任）について

当行は「地域の活性化」を中期経営計画の重点戦略の一つに掲げ、その一環として地域貢献を目的としたCSRの取組みに努めています。当行の経営資源を活かし、地域社会・地域経済の発展および環境保全に継続的に取組むことにより、企業の社会的責任を果たしてまいります。

●環境保全活動の推進
●社会貢献活動の推進

〈環境保全活動の推進〉

■環境保全への取組み

●環境ISO活動への取組み

当行は平成14年、本店および事務センターを対象に環境ISO（ISO14001）の認証を取得し、その後リサイクルセンターや研修センター等において認証を追加取得しました。

認証対象部署においてISO規格に準拠した環境保全活動を継続しているほか、認証対象外の営業店や関連会社などでも「クールビズ」や「身近な環境保全活動」を実践するなど、当行グループを挙げて環境保全活動に取組んでいます。

なお、これまでの活動への意識が十分に定着していることを踏まえ、平成26年2月、当行の環境マネジメントシステムがISO14001の国際規格に適合していることを自らの責任をもって宣言する「自己適合宣言(※)」に移行しました。移行後も更なる取組み強化に努めています。

また、当行は、環境省が展開する地球温暖化対策のための国民運動「COOL CHOICE」に賛同登録するとともに、同省の提唱するキャンペーン「Fun to Share」にも参加し、無理なく炭素ガスを減らすという本キャンペーンに沿った活動を実践しています。

全店においてクールビズを実施
（5月1日～10月31日）　～室内温度は28℃に～

※第三者による評価として、外部コンサルタントであるSOMPOリスケアマネジメント株式会社から自己適合宣言に関するコメントを得ています。

●リサイクルセンター

保存期限の過ぎた文書の機密保持とリサイクルを目的として、平成19年6月にリサイクルセンターを設置しました。

大型シュレッダーで裁断した紙を製紙工場に運んでトイレットペーパーやメモ帳などに再生しており、平成28年度中にリサイクルした紙の量は299トンに達しました。

今後も紙ゴミの排出削減と紙資源の循環に貢献してまいります。

リサイクルセンター

●エネルギー使用量の削減

当行は、従来より環境ISO活動の一環として空調の設定温度の適正化（室温は冷房時28℃・暖房時20℃）のほか、店舗やショーウインドウへのLED照明の採用など、エネルギー（電気＋都市ガス＋重油）使用量の削減に努めています。

また、平成22年度以降の4年間で21年度比5%超のエネルギー使用量の削減をめざす計画を策定し、省エネ型空調設備の導入等、中長期的なエネルギー使用の合理化を進めてまいりました。

また、平成23年度からは、節電施策にも取組んでおり継続してエネルギー使用量の削減に努めています。

◎「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則」に署名

同原則は、21世紀における持続可能な社会の実現には金融の果たす役割が重大であるとして、環境省の審議会の政策提言を受け策定されたものです。

当行は平成23年12月、同原則に署名しました。同原則の趣旨を当行の環境ISO活動に反映させることにより、地域における環境保全に金融を通じて貢献してまいります。

■環境方針

南都銀行は、日本人の心の故郷（ふるさと）、古都奈良の地に本拠を構え、地域とともに歩んでおります。悠久の歴史の中で守られてきたこの素晴らしい風土を後世に引き継ぐため、地域のリーダーシップを取って、環境の保全と循環型社会の形成に努めてまいります。

1. 恵まれた自然環境や、歴史的風土の保全に配慮し、環境への負荷低減を事業活動の基本と認識し行動するため、「環境マネジメントシステム」を構築します。なお、このシステムは継続的に改善し、汚染の予防に努めます。
2. 環境に配意した金融商品・サービスの開発・提供等を通じ、環境保全に取組むお客さまを支援します。
3. 日常業務を行う中で、環境への影響を考慮することにより、省資源・省エネルギーと廃棄物の削減を推進します。
4. 環境法規制、およびその他の要求事項を順守し、環境保全活動に取組みます。
5. この方針を基に実践するため、具体的な環境目的・環境目標を設定し、定期的に見直しを行います。
6. 環境方針を全役職員および当行のために働く人に周知するとともに、内外に公開します。

平成13年10月1日（制定）
平成20年 7月1日（改定）

株式会社　南都銀行

用語解説

環境マネジメントシステム
環境保全のための活動を行う上で、組織を管理し、活動を監査するための仕組み。このシステムを運用するための基本となる指針が、上記の「環境方針」。

◎「木（き）づかい運動」と「Yoshino Heartプロジェクト」

「木づかい運動」とは、国産材の積極的な利用を通じて植樹や間伐等の森林の健全なサイクルを取り戻し、CO_2をたっぷり吸収する元気な森林づくりをする運動です。

当行は、平成20年11月に銀行業界で初めて林野庁が推進する「木づかい運動」のロゴマークの使用承認を受けています。

当行は「Yoshino Heartプロジェクト」支援の一環として、環境にやさしい木製品の配付や「吉野3.9ペーパー」の利用を通じ、環境面における木材利用の重要性をアピールしていますが、これは「木づかい運動」とも連動する活動です。

平成23年10月には当行の活動が「木づかい運動」の著しく有効なPRにつながったとして、農林水産大臣から感謝状を受けました。

Yoshino Heartロゴマーク

国産材でつくる森のサイクル 木づかいニッポン
B-(3)-080031
木づかいサイクルマーク

〈社会貢献活動の推進〉

■「吉野の桜を守る会」に参加

当行は、近年、立ち枯れなど衰退の兆候が目立つ世界遺産・吉野山（奈良県吉野町）のシロヤマザクラ（約3万本）を守るため、官民を挙げて設立された「吉野の桜を守る会」に特別会員として参加しています。

同会に対しては金銭面の支援に留まらず、各種イベントへのボランティア・スタッフの派遣など活動面からも積極的に支援しています。具体的な活動としては、同会が主催する「さくらの学校」や「サマースクール」などのイベントへの協力とともに、各々の会場において桜の保護を訴えるパネル展示や「さくら募金」の呼びかけを行っています。

イベント時の募金活動

千本桜プロジェクト“サクランボ拾い”

「千本桜プロジェクト」は、平成30年（「吉野の桜を守る会」結成10周年）までに、全国各地に1,000本の桜の苗木を植えるプロジェクトです。

同プロジェクトの一環として行われる、吉野山の母樹から苗木を育てるための“サクランボ拾い”には当行行員もボランティアスタッフとして参加しています。

◇平成２８年度「地域密着型金融」の具体的な取組み

ナント・なら・ずっと！
NANTO 南都銀行

■＜ナント＞萬葉チャリティーウォーク

＜ナント＞萬葉ウォークは、昭和63年にスタートし、毎年春と秋の年2回、万葉集ゆかりの史跡をウォーキングしています。

平成16年秋からは「チャリティーウォーク」とし、参加人数に応じた金額を当行より拠出し、奈良県社会福祉協議会に贈呈しています。

第63回＜ナント＞萬葉チャリティーウォークは平成29年6月3日（土）に開催しました。当日は、龍田古道約6キロをウォーキングし、6月22日（木）に奈良県社会福祉協議会に寄付金を贈呈しました。

第63回 ＜ナント＞萬葉チャリティーウォーク

■金融経済教育への取組み

当行は、地元中学校等への講師派遣や銀行見学の受入れなど、地元における金融経済教育に注力しています。地域の小・中学校で人の声に反応し双方向のコミュニケーションが可能な人型ロボット「PALRO（パルロ）」を活用した金融経済教育等にも積極的に取組んでいます。

また、「全国高校生金融経済クイズ選手権“エコノミクス甲子園”」の奈良大会を主催し、県下の高校生に出場機会を広く提供しています。

さらに、養護学校への講師派遣や職業実習の受入れを通じ、学習・就業支援も行っています。

エコノミクス甲子園奈良大会

PALRO（パルロ）

■ナント・なら応援団

当行退職者40人から成る「ナント・なら応援団」は、県下の社寺等において拝観のガイドを行うボランティア・グループで、平成22年開催の平城遷都1300年祭を機に結成されました。

奈良県内各地で文化財を特別公開する「祈りの回廊 秘宝・秘仏特別開帳」等において、元銀行員のきめ細やかな対応を強みに活動し、観光客から好評を得ています。

平成29年春には全4ヵ所でガイドを実施しました。

今後とも観光県奈良の活性化に取組んでまいります。

薬師寺から感謝状

■南都銀行ホッケー部

当行は昭和57年、わかくさ国体を契機に女子ホッケー部を創部し、奈良県のスポーツ振興に貢献しています。

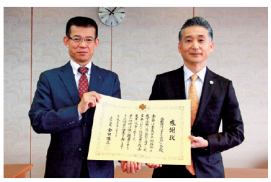
また、関西圏の小・中・高校生を対象に「ホッケースクール」を開催するなど、ホッケーを通じた地域社会との交流にも力を入れています。

■「小さな親切」の会

南都銀行「小さな親切」の会は、明るい地域社会づくりをめざして、清掃活動や献血活動等幅広い公益活動を実施しています。

本会が、「まごころの一冊」運動として永年にわたり続けてきた奈良少年刑務所への書籍の寄贈に対し、平成29年3月、奈良少年刑務所より感謝状を授与されました。

（本活動は、昭和62年12月から平成27年12月まで、奈良少年刑務所に書籍を寄贈してきたもので、29年間で延べ5万5,000冊を寄贈、平成28年12月には、同刑務所の閉鎖決定を受け奈良少年院に対し書籍1,000冊を寄贈しています。）



■公益財団法人 南都育英会

地元の人材育成に奉仕するため、奈良県下に居住する人柄・学力とも優秀な高校生・大学生を対象に、奨学金援助を行っています。

平成29年6月末現在の奨学生は66名で、卒業生は1,370名に達しています。

◇平成２８年度「地域密着型金融」の具体的な取組み

ナント・なら・ずっと！ NANTO 南都銀行

■認知症サポーター養成講座・手話講習

厚生労働省が進める「認知症サポーターキャラバン」の趣旨に賛同し、平成20年度より、「認知症サポーター養成講座」を新入行員研修のなかで実施しています。この講座で習得した知識は、店頭応対や地域における認知症の方へのサポートに活かしています。

また、新入行員研修においては「手話講習」も実施しており、耳のご不自由な方とのコミュニケーションの方法や応対時の心構えについて学んでいます。

手話講習

■まほろば「あいサポート企業」に認定

まほろば「あいサポート運動」とは、奈良県が推進している“日常生活において障がいのある方が困っている時などに、ちょっとした手助けをする運動”で、当行は、平成28年12月、本運動に取組む「あいサポート企業」として認定されました。

■視覚障がいをお持ちの方などへの対応

当行は、すべてのキャッシュコーナー（店外を含む）に、ご高齢の方や目のご不自由な方、車いすをご利用の方でも操作しやすい機能を備えたユニバーサルデザイン仕様のATMを設置しています。さらに、どなたにもご覧いただきやすいよう色のコントラストを強調し、ボタンの境界をわかりやすくする等の「カラーユニバーサルデザイン」認定を取得した操作画面を順次新型のATMに導入しています。

また、お客さまのご依頼により、口座残高や取引明細を点字でお知らせするほか、口座名義や番号を点字表示した通帳ケース・カードケースもお作りしています。

※当行のATMの特長
- ●大きく見えやすい文字（拡大表示も可能）
- ●操作しやすい「音声案内システム」の搭載
- ●車いすご利用の際にも操作画面等に近づきやすい形状

音声案内（VI）機能付ATM

車いすでもご利用いただきやすいATM

■バリアフリーや環境に配慮した店舗の拡充

当行は、ご高齢の方やお子さま、ハンディキャップをお持ちの方々にも、安心してご利用いただけるよう、バリアフリーに対応した店舗作りに取組んでいます。

また、LED（発光ダイオード）照明など環境負荷低減に向けた設備の採用も進めています。

※バリアフリー対応店舗の特長
- ●車いす用駐車スペースの確保
- ●点字ブロックの設置
- ●段差の解消、等

■AEDを全店に設置

当行は、地域の方々にもご使用いただけるよう、全店のキャッシュコーナーなどにAED（自動体外式除細動器）を設置しています。

※AEDは、心臓が痙攣し血液を送る機能を失った状態になった時、心臓に電気ショックを与え正常なリズムに戻すための医療機器で、平成16年7月以降は、医療従事者以外でも使用できます。

地域やお客さまに対する積極的な情報発信

・ホームページ（http://www.nantobank.co.jp/）での掲載

- ●地域密着型金融（トップページに掲載）⇒当行の地域密着型金融の取組状況を掲載
- ●金融円滑化への取組みについてご相談窓口（トップページに掲載）
  ⇒中小企業融資、住宅ローンの利用者のご返済等の相談専用窓口の連絡先を掲載

・地域の経済、産業に関する調査・研究

当行は、地域のシンクタンクとして一般財団法人 南都経済研究所を設立し、地域の経済・産業に関する調査・研究を行っています。その結果については機関誌「ナント経済月報」や同研究所のホームページなどを通じて広く、企業・行政・マスコミなど地域の皆さまに情報を提供しています。また、セミナー等の開催や有資格者による経営コンサルティングの実施など、地域の経済・産業の振興に関わる取組みを行っています。